

2030 年問題の続き

先日始業式、校長先生は「2030 年問題」について teams を通じてお話ししました。憶えていますか？簡単に言うと 2030 年には今では予測不可能な社会に変わっています。例えば日本の国で人口がどんどん減っていったり、人口の 3 分の 1 が 65 歳以上の高齢者になるなど、日本では初めてのことが起きます。そのような社会に対応するには「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の 3 つの力をバランスよく育むことが大切で、その中でも皆さんには「学びに向かう力」をつけてほしい。「学びに向かう力」＝「夢・好奇心・好きなこと」なので、好きなことをどんどん見つけてください。というお話でした

実は、この夏休み中、その考えと全く同じことを言ってくれている人を見つけました。それが、この「空想教室」を書いた植松努さんです。植松さんは小さい時からロケットが大好きで、それが高じて今ではロケット開発、さらには人工衛星開発などを事業とする植松電機を立ち上げた人です。植松さんは小さいころからロケットが好きで、大人になったらロケットを作ろうと決めていました。ところが周りはそれを「どうせ無理」と言って、止めたり、ばかにしたそうです。小学校の担任の先生には強く怒られたそうです。それでも夢をあきらめず、追及した結果今の成功につながったそうです。

その植松さんが言っています。「何をやりたいか？」をずっと探してください。そしてそれが見つかればやり続けてください。そうするとやり続ける自分に小さな自信が生まれ、それがやがてやさしさにつながり、周りには同じような夢を持つ仲間が集まってくる、と。夢をかなえ、周りには仲間がいる。まさに理想の人生ではないでしょうか？

この本は校長室にありますので、いつでも見に来てください。是非、「好きなこと」・「やりたいこと」を探し続け、見つかればそれを続けてください。